



お

親子で学べる

歴史民俗資料館



か

上方から

伝えられた

香ばしい茶粥



き

客船帳に

往時を偲ぶ

野辺地湊



く

苦難さまざま

会津藩士の墓標

歴史民俗資料館

野辺地には、概ノ木・寺ノ沢など縄文時代の遺跡が数多くあります。それらの遺跡から出土した土器・石器や土偶が展示されています。江戸時代の北前船の出入りの記録や品々、代官所の資料、昔の農具や生活用品などが並べられており、野辺地町の歴史を見て学ぶことができます。

茶粥

北前船の船乗りたちが野辺地に伝えたと言われる茶粥は、豆科の植物カワケツメイをお茶にして炊き上げます。昔は家の周りや畑に植えて、夏に刈り取り逆さに吊るして乾燥させ、鍋で炒った草茶でお粥を作ります。その香りが町中に広がり、お粥をすすめる音が家々から聞こえてくるほどでした。

野辺地湊

盛岡藩の西廻り航路への玄関として野辺地湊が開かれました。その当時のことを客船帳(町指定有形文化財)から知ることができます。野辺地からは御用銅・大豆・ヒバ材・海産物などが積み出され、大阪や瀬戸内海などからは、衣類・紙・塩・茶などが入ってきました。客船帳からは、湊を訪れた船の名前や船乗りが誰なのかなど、いろいろなことを知ることができます。

会津藩士の墓標

戊辰戦争で敗れた旧幕府軍の会津藩の人々が上北や下北へ家族で移り住み「斗南藩」をつくりました。明治三年には野辺地に藩士や家族が移り住みました。そして、この地でなくなった藩士や家族のお墓が今も残っています。